

がん医療に関する取組(例)

【目標】がん医療の均てん化

現状

全がん
年齢調整死亡率
〇.〇(人口10万対)

受療が望ましい
医療機関と全体の
部位別生存率較差

- 胃 〇.〇p
- 大腸 〇.〇p
- 肝臓 〇.〇p
- 肺 〇.〇p
- 乳房 〇.〇p
- 食道 〇.〇p
- 胆のう 〇.〇p
- 膵臓 〇.〇p
- 子宮 〇.〇p
- 卵巣 〇.〇p
- 前立腺 〇.〇p
- 膀胱 〇.〇p
- リンパ組織 〇.〇p

がんによる死亡者の減少、患者のQOL
向上を目指したがん医療の推進
〈都道府県〉
・都道府県及び地域がん診療連携拠点
病院の診療成績及び診療機能(機器
整備、専門医の状況を含め)公表
・個別の医療分野で優れた診療実績を
有する医療機関の診療成績及び診療
機能(機器整備、専門医の状況を含
め)公表

放射線及び化学療法の推進

〈都道府県〉
・がん診療を担う医療機関における放射
線療法及び化学療法に関する実施状
況や体制の把握、医療計画への反映
〈医療機関〉
・がん診療連携拠点病院を中心に、①互
いに足りない診療機能の補完等により
医療機関の役割分担・連携を強化、②
医療従事者(医師、診療放射線技師、
看護師、薬剤師など)の育成のための
研修及び指導体制を整備



がん医療の 均てん化

緩和ケアの充実

〈都道府県〉
・がん診療に関わる医療従事者を対象とした緩和ケア研修を定期的実施。
〈医療機関〉
・がん診療連携拠点病院を中心として、二次医療圏ごとに「緩和ケアの地域ネットワーク」を設置し、緩和ケア病棟、緩和ケア外来、緩和ケアチーム、在宅療養支援診療所、訪問看護ステーション・薬局等の地域ごとの連携を推進し、切れ目のない緩和ケアを提供していく。また、定期的に緩和ケアに関する研修を実施。
・がん在宅医療あるいは緩和ケア従事者を対象とした相談窓口の実施。
在宅療養の充実
〈都道府県〉
・在宅医療における診療所、在宅療養支援診療所、訪問看護ステーション等の連携に関するモデル事業の立ち上げ。
・診療所や実績が希少な在宅療養支援診療所に対し、研修会等を通じて在宅医療への正しい理解を促す。
〈医療機関〉
・二次医療圏ごとに「在宅医療のネットワークに関する地域連絡会」を設置し、医療機関同士の連携を推進するとともに、緩和ケアに関するネットワークと有機的な連携体制を構築する。
・診療所、在宅療養支援診療所、訪問看護ステーション、保険薬局に従事する医療従事者等に対し、研修等を実施。
がん医療に関する相談支援及び情報提供(都道府県・医療機関)
・相談支援センターにおける情報提供体制の充実。

全がん死亡
率減少割合
〇〇.〇%

部位別死亡
率減少割合

- 胃 〇〇.〇%
- 大腸 〇〇.〇%
- 肝臓 〇〇.〇%
- 肺 〇〇.〇%
- 乳房 〇〇.〇%
- 食道 〇〇.〇%
- 胆のう 〇〇.〇%
- 膵臓 〇〇.〇%
- 子宮 〇〇.〇%
- 卵巣 〇〇.〇%
- 前立腺 〇〇.〇%
- 膀胱 〇〇.〇%
- リンパ組織 〇〇.〇%